

九州大学病院

研修医 河野 雄紀 2013年9月

九州大学病院初期研修医2年目の河野雄紀と申します。今回私は、2013年9月の1ヶ月間、出水総合医療センターで地域医療研修をさせていただきました。

内容としては、院内の外科、および院外の野田診療所、高尾野診療所、大川内診療所、上場診療所、出水保健センターで研修を行いました。

研修の中で最も印象に残ったのは、夜間一次救急診療でした。今までの夜間・時間外当直は、血液検査・レントゲンをはじめ、CT、MRIなどまで揃っている場でのものでした。

受診患者に対しては、血液検査・レントゲンを行うことが多く、その結果を見て次の判断を考えることが主でした。

一方今回経験した夜間一次救急では、それらの機器もなければ、処方できる薬剤も限られている状況で、私にとっては初めての経験でした。診断に至るためのツールは視診、聴診、触診などの身体所見しかなく、それらの重さを再認識させられました。

診療の理想としては、まず身体診察でおおよその推測を行ってから、血液検査で確認、そしてその後の追加の検査もしくは治療を考えるというものと思います。

しかしこれまでは、初めの身体診察についての意識が薄く、血液検査やレントゲンの結果にかなり頼っていたことに気付かされ、自省させられました。その点で出水での夜間一次救急診療は、私にとって重い経験となりました。

院内では外科を中心に研修を行いました。印象的だったのは80歳を超える高齢者にも、適応があれば積極的に全身麻酔手術を行っていることでした。

術前や術後の元気な（全身状態良好の）様子を見ると、今まで持っていた「高齢者」のイメージは崩され、単純に年齢のみで患者の状態を判断してはいけないと再認識させられました。

院外では野田診療所で多く研修をさせていただきました。外来患者のエコー検査や内視鏡検査に参加し、緊張感を持ちながら貴重な経験を積むことができました。

往診にも同行させていただき、地域の患者の様々な生活環境の場を見ながら、診療を経験しました。内村先生のような多くの先生方の努力で地域の健康を支えられていると感じました。

今回私は1ヶ月の研修の中で、「都会ではない」という意味での「地域」と、「医療の最前線」という意味での「地域」における診療を経験することができました。どこにでも何でも設備や道具や人員は揃っている訳ではない中で、最善の医療を行う様子を身をもって経験することができ、本当に貴重で有意義な1ヶ月であったと思います。

宗清先生を始め、外科の先生方、各診療所で指導して下さった先生方、その他お世話して下さった多くのスタッフの方々に深く感謝申し上げます。どうもありがとうございました。